



第85号

宍粟市立

はりま一宮小学校

学校教育目標

「こころ豊かにたくましく
自ら学ぶ児童の育成」

本年度のテーマ

子どもが主体的に学ぶ
学校文化の創造

自然災害に備えて

わたしたちができること

生活指導部

秋の深まりとともに、日々の寒さが増してきました。先日は秋の体験活動として三年生が炭焼き保存会の方にお世話になり炭焼体験を、五年生が山田の棚田での稲刈り脱穀体験を、二年生と五年生が東市場老人クラブ様にお世話になりサツマイモ収穫と焼き芋の機会をいただきました。おかげさまで子どもたちは普段できない体験に目を輝かせ、地域の皆様とふれあいながら楽しいひと時を過ごすことができました。丹精込めてご準備いただいたことに心より感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願い致します。

さて、今回の校報では小学四年社会科「自然災害から人々を守る活動」で児童が学習したことを通して、自然災害に備えてわたしたちができることについて考えていきたいと思っています。この学習では、災害発生時の「対処」と災害対策の「備え」をキーワードとして、「地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていること」を追求する内容となっています。また、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を県庁や市役所の働きなどを中心に、自衛

隊など国の機関の取り組みをとらえ、日ごろから必要な備えをするなど、自分たちでできることなどを考えたり選択・判断したりできるようにしていきます。宍粟市教育委員会が市内の小中学生に発行している社会科の副読本「わたしたちの宍粟」には、この学習にわたしたちの地域に起こった土砂災害として一宮町下三方地区に発生した山津波が紹介されています。旧下三方小学校の裏山は、約三百年前から抜山（ぬける山の意味）と言い伝えられており、その言い伝えをもとに住民が警戒し、土砂災害の前ぶれ（前兆）にいち早く気づいたことが、わずかな時間の間の奇跡の避難につながったといわれています。このできごとについては、兵庫の防災教育「明日に生きる」にも「宍粟市一宮町につたわる抜山伝説」として紹介され、兵庫県下の小中学生が学んでいます。

四年生の児童は、この地域に起こった山津波災害から、地域に起こった災害について知り、それに備えておくことの大切さに気づいていきました。最後に学習のまとめとして

「災害にそなえて、自分たちにはどのようなことができるのだろうか。」という課題をもち、グループ毎にできることのテーマを設定しスライドをまとめるなどして「深め合い」活動をおこないました。各グループが追求したテーマは、次のようなものです。

これまでに発生した自然災害とその原因↓
地震、風災（台風、暴風、竜巻）、水災（豪雨、

山津波、洪水、浸水）、火災、津波などについて、災害に備えて準備すること↓避難場所や避難経路の確認、防災バッグの確認、備蓄品の確保、避難所にはないものや家庭で準備しておくことよいもの（常備薬、赤ちゃんの食べ物、ペット用品）、水はけのよいところの掃除、家の中で安全な（危険な）場所の確認、家具の固定、ハザードマップの確認、家族の写真や連絡手段の準備（家族同士での安否確認の方法を決める）などです。どのグループもまとめとして、「災害はいつ起こるかかわからない。災害が起こる前に準備しておくことが大切だ」という考えを発表していました。

大きな災害が起こった直後には、消防や自衛隊などによる救助活動（公助）は、すぐにおこなうことができません。宍粟市一宮町で起こった山津波のときや、阪神淡路大震災のときも、地域の人たちが家の物や情報を持ちより、多くの人の命を助け出しました（共助）。災害が起こったとき、まずは自分の命は自分で守ること（自助）がもとめられます。そのためには、命を守る方法を知り、訓練しておくことが大切です。四年生児童が追求し考えた

11月 行事予定

- 18日(火) 読書ボランティア
父母と教職員の手をつなぐ映画会
21日(金) 見学旅行(1・2年)
30日(日) 園小中合同リサイクル活動

12月



- 3日(水) 学習発表会リハーサル
5日(金) 14:10 全校下校
6日(土) 学習発表会
12:00 保護者と下校
8日(月) 振替休日
10日(水) 学力テスト(1~5年)
11日(木) 6年生中学校体験
15日(月) クラブ活動(4・5・6年)
16日(火) 命の授業(1・3年)
読書ボランティア
18日(木) 自治会別児童会
19日(金) 給食最終日
22日(月) 午前中授業 11:30 全校下校
23日(火) 午前中授業 11:30 全校下校
24日(水) 3学期終業式 11:00 全校下校